

ニホンテコンド

コッキ

カンヨウ

日本跆拳道で克己の精神を涵養し幸福になろう！

青年（社会人・大学生）篇

若さの維持、難関資格試験合格、志望就職実現

2019年7月18日
日本テコンドー協会
会長 河 明生

「一度しかない人生、幸せになりたい！」。

人ならば、誰でも願う理想です。

宿命は変えることができません。（注1参照）

しかし、運命は変えることができる、とみなして下さい。

運命はめぐりあわせだ、とみなして下さい。

あなた自身が幸せになるための「有意義なめぐりあわせ」をあなた自身の決断によって引き寄せるのです。（注2参照）

有意義なめぐりあわせを引き寄せる一つの決断が日本跆拳道への入門です。

日本テコンドー協会（JTA）が普及する武道は七大精神を掲げる日本発祥の新武道・日本跆拳道です。

七大精神は、国家にたとえるならば憲法に相当します。

JTAという武道組織が、いかなる理念と理想を掲げて、門人・会員の幸福実現に貢献するのかを主張しているのです。

JTA七大精神には「克己の精神を涵養すること」

が明記されています。

日本跆拳道に入門、鍛錬し、克己の精神を涵養しませんか！

幸せになるための絶対的な条件こそが、望むべき職業に従事することです。

身分制が強要されていた封建時代は、先祖代々、殿様の子は殿様、家老の子は家老、足軽の子は足軽、農民の子は農民、被差別民は被差別民の「生業」等々、生まれながらの身分によって「職業」が決められていたため、「職業」は変えることのできない宿命でした。

しかし、現代日本は違います。

世界に誇れる素晴らしい憲法（平和主義の下、職業選択の自由が保障）を日本国民は持っています。

ゆえに、日本国籍を有する日本人ならば本人の才覚と努力次第で、
幸せになるためのめぐりあわせ=望むべき職業をひきよせることができるのです。(注3参照)

しかしながら、望むべき職業に従事し、幸せになれるパスポートを獲得したとしても、
若さ=健康を保つことができなければ幸せを保つことはできません。

1、日本跆拳道で若さ=健康を保ち続け、 格闘技の殿堂・後樂園ホールで輝き続けている 日本テコンドー協会門人

我が日本テコンドー協会には、日本跆拳道に入門、鍛錬し、
克己の精神を涵養し、望むべき職業に従事し若さ=健康を保ち続けている門人が多数
存在します。

彼らは大学卒業後、官公庁や著名企業等に務めながら
日本跆拳道で鍛錬し若さ=健康を保ち続けています。
一流現役選手として、今なお格闘技の殿堂・後樂園ホール
のリング上で輝いています。



撮 影 後樂園ホール 2019年11月24日 土曜日

写真提供『ファイト&ライフ2019年2月号 記事

武道で幸福観を高めるー学生・社会人が武道を続ける理由とその効果』
(4列真ん中・大学生と1列目右・高校生紹介省略)

4列左 **倉田剛志** (二段 千葉柏テコンドークラブ所属、社会人入門・日本跆拳道歴13年)

三菱電機ビルテクノサービス勤務 39歳 現役A級組手及びA級型選手

第24回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 男子A級無差別級組手 優勝

第29回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 男子A級無差別級組手 準優勝

4列右 **八幡直明** (初段 東京中野テコンドークラブ所属、日本跆拳道歴13年)

神奈川大学体育会テコンドー部卒業後、東京消防庁本郷消防署勤務 31歳 現役A級組手選手

第27回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 男子A級無差別級組手 優勝

第29回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 男子A級無差別級組手 優勝

3列目 **前根奏子** (二段 横浜鶴見テコンドークラブ所属、日本跆拳道歴7年)

横浜市立大学体育会テコンドー部卒業後、パナソニック勤務 25歳 現役組手及びA級型選手

第26回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子級無差別級組手 優勝

第28回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子級無差別級組手 優勝

第29回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子級無差別級組手 優勝

2列目左 **市坪 愛** (初段 東京江東テコンドークラブ所属、日本跆拳道歴9年)

横浜市立大学体育会テコンドー部卒業後、ジェイック勤務 27歳 現役組手選手

第23回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子級無差別級組手 優勝

第24回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子級無差別級組手 優勝

第25回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子級無差別級組手 優勝

2列目右 **高 怜香** (二段 武蔵小杉テコンドークラブ所属、日本跆拳道歴14年)

横浜市立大学体育会テコンドー部卒業後、かんぼ生命勤務 31歳 現役組手選手

第28回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子級無差別級組手 準優勝

1列目左 **角田知美** (二段 武蔵小杉テコンドークラブ所属、日本跆拳道歴12年)

横浜市立大学体育会テコンドー部卒業後、キリン(ビール)勤務 30歳 現役組手選手

第27回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子B級無差別級組手 優勝

本年11月23日(土) 後楽園ホール開催 第30回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会で
上記選手同様、後楽園ホールのリング上で輝くことが期待できる選手をあげれば次の通りです。

小川浩平(44歳、三段、神大→同テコンドー部監督、沖電気G、第28回全日本FT大会壮年組手優勝)

相良典隆(43歳、初段、鹿児島曾於TC、鹿児島県教員、第29回全日本FT大会 B級型 優勝)

山崎崇史(27歳、初段、岡山大→愛媛松山TC、住友金属、第26回全日本FT大会 A級型 準優勝)

谷本翔平（25歳、初段、岡山大→愛媛松山TC、広島市職員）

2、難関資格試験合格し、望むべきスペシャリスト職業に従事・活躍している門人及び卒業生

JTA入門・昇段し、難関資格試験に合格し、望むべきスペシャリスト職業に従事し、活躍している門人及び卒業生も多数存在します。難関資格試験に合格することも、一つの才能です。

青年期に自分に負けずに勝ち、自分を持続的に奮い立たせる克己の精神を涵養することで、元々、持っていた才能を開花させたと考えます。

これを偶然だと言うのは、一を知って二を知らないといえます。

武道界の中でメジャーな「国策的武道」の柔道や剣道、あるいは空手等を選ばず、

マイナーなテコンドー、その中でもマイナーな日本跆拳道を選び入門・昇段した青年達から、

就職が難しい官公庁・大企業や難関資格試験合格者を持続的に輩出しているという事実そのものに着目して頂きたい。

入門後の彼らが、日本跆拳道が自分の人生にとって意味のない武道であったなら、

元々、難関試験に合格できる素地、すなわち思考能力の高い彼らは、途中で退会していたはずで

自分の人生に意味があったから持続して昇段し、自分を持続的に奮い立たせて合格し、

幸せになるためにスペシャリストになった現在も、日本跆拳道で鍛えた精神力に基づき活躍していると考えます。その一部が表1です。（注意4参照）

表1、日本テコンドー協会・有段者中の難関資格試験合格者

（*は現役門人。**は難関資格資格や医学部合格後、入門した有段者。合格順）

氏名	所属	段位、	入門時在籍大学	合格難関試験	現職
河島勇太	横浜鶴見TC	初段	東京大学法学部	司法試験合格	国際弁護士
水野健彦	神奈川大学体育会	初段	神奈川大学経済学部	公認会計士試験合格	公認会計士
佐藤航平**	福岡筑紫野TC*	初段	東京大学農学部	弁理士試験合格	弁理士
近藤拓也**	横浜鶴見TC	初段	横浜市立大学医学部	医師試験合格	医師
多湖 翔*	横浜TC	初段	上智大学法学部卒業後入門	司法試験合格	弁護士
玉城 航	横浜市立大学体育会	初段	横浜市立大学商学部	公認会計士試験合格	公認会計士
石橋駿一	岡山大学体育会	初段	岡山大学法学部	司法試験合格	弁護士

備考 非昇段者で、少年時代に河門下となって薫陶を受け、医学部に合格した元会員は3名。
なお、WBCボクシング 世界ライト級チャンピオン9連覇を達成した徳山昌守も、
小学5年生から3年間、河門下となって薫陶を受けている。

ヨーロッパの武道界同様、IQの高い青年が、数ある武道の中で我が日本跆拳道を選び入門・昇段しているという事実も、望ましいことです（注5参照）。

他方、日本跆拳道は、普通の青年に効果がないわけではありません。

たとえば、私・河が、約33年前に創部した神奈川大学体育会テコンドー部卒業生の進路は次の通り。
（ただし、就職先の記憶が確実な卒業生のみ紹介）。

表2、日本テコンドー協会加盟・神奈川大学体育会テコンドー部卒業生の就職先

アイシン、愛知県警、茨城県警、一級建築士、医療コンサルタント、イオン、エプソン *NTT*沖電気G、小田原市役所（上級・土木技術職）、*神奈川県警##、神奈川県教員 川崎市役所（上級）、グローリー、警視庁#、厚生労働省（国家2種）、公認会計士、埼玉県警 滋賀県警、千葉市消防署、千葉県警、東京外国語大学職員、*東京消防庁#、東京入国管理局 東京電力、豊橋市役所（上級）、日立製作所（技術職）、米軍福生基地消防署、マルハニチロ、 三菱重工業（技術職）、*三井住友海上保険、*横浜市消防署#、

（五十音順。*は全日本大会上位入賞者が含まれる。#は5名以上、##は15名以上就職。
好不況にかかわらず著名大企業の場合、一般の神奈川大学卒業生の採用枠は1～2名）

入部者のほぼ9割が第一希望で入学してきたわけではありません。
何らかのコンプレックスをもつ部員が多く、人前で話せない等、内向的な部員が多数でした。
そのような若者を日本跆拳道で鍛え、人生に対するやる気、とりわけ克己の精神を叩き込み、
その一部が、幸せになるためのパスポート＝希望の職業に就いたのです。
就職に関する限り、ゼミよりも結果をだしていると自負しております。
結果を出せた部員は、「幸せになるためのめぐり合わせ」に成功したと言えるでしょう。
つまり運命を変えたわけです。

他方、神奈川大学体育会テコンドー部は、創部以来、全日本テコンドー選手権大会で活躍する名選手を多数輩出してきました。

しかし、創部以来、神奈川大学体育会テコンドー部入部者のうち身体的能力が高かったのは3名のみ。
（山村光伸・現神奈川県警・ITF全日本大会ヘビー級3度優勝、
尾崎圭司・全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会無差別級組手2連覇後、K-1ミドル級3位
斉藤 健・現神奈川県警、全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会無差別級組手3連覇）

テコンドー経験者0名、推薦入学者0名の中、やる気＝克己の精神を叩き込んで、彼ら3名以外にも、
全日本チャンピオンを延べ30名以上、上位入賞者に至っては50名以上、輩出してきました。
これこそが、教育効果だと自負しています。

青年諸君！

人生は、今も昔も、やる気＝克己の精神です。

「幸せになるためのめぐり合わせ」＝日本跆拳道入門
を決断し克己の精神を涵養し幸福になりませんか！
初心者も歓迎します。

性別も問いません。

人生を切り開くのはあなた自身の前向きな行動です。

注1 生あるものは必ず死ぬ、これは宿命であり、変えることができません。

注2 運命をめぐりあわせだとみなせば、「幸運なめぐりあわせ」を引き寄せれば幸福になれます。
たとえば、人との出会いは、優れた師・先生、友達、同志、配偶者、職場の上司・同僚・後輩、
職場等の組織と出会えば幸福になれる可能性が高まります。
逆に、「不運なめぐりあわせ」を引き寄せれば不幸になるでしょう。
たとえば、交際者との別れや離婚等は、「不運なめぐりあわせ」の解消と言えます。
この人につきあっても、あるいは婚姻関係を継続しても、自分は幸せにはなれないから別れて
新たな恋人や配偶者と出会いたい＝「幸運なめぐりあわせ」を引き寄せたいということです。
離職や所属していた組織の離職・離脱等も「不運なめぐりあわせ」の解消と言えますが、
後悔する場合が少なくありません。「幸運なめぐりあわせ」を引き寄せようと転職したり、
新団体に加盟したが結果として不幸になったというわけです。
「運も実力のうち」と言われるように幸運なめぐりあわせを見抜く力が足りなかった、とくに
自分が選んだ新たな組織やリーダーの資質を見誤った組織眼・人物眼の欠如といえるでしょう。
客観的に良い組織だと思っていた、あるいは客観的な原因がまったく分からず、一方的な感情論
かつ主観的な言動に惑わされ、しぶしぶ新リーダーに従ったものの不幸になった。このことを
「幸運なめぐりあわせ」を引き寄せる実力が無かった＝「運がなかった」と表現するのです。

注3 幸せになるための職業は、必ずしも高収入を意味するものではありません。

「この職業こそが私の天職（ドイツ語Beruf、英語Colling）！」

と持続的に確信し、観じることができるのであれば、

たとえ低収入であったとしても、幸せになるための条件を獲得しているといえます。

注4 日本全国に大学と名乗り補助金＝税金の交付を受けている学校法人は約900校。

そのうち90%以上は、司法試験や公認会計士試験合格者を一人も出していません。

また、剣道や柔道のように、100年以上に渡り税金の補助を受け、日本全国に優先的に使える
武道館や警察や学校の道場をもつ等、手厚い国家的優遇政策があり、現在の指導者層が生まれる
遙か以前から組織や地方大会や全日本大会までの試合環境およびスポンサーの全てが揃っている
結果、何万人も愛好家がいる「国策武道」とは事情が異なります。

我が日本テコンドー協会（JTA）は、創設僅か約20年（前身団体創設から数えると約37年）。

寄付や税金に頼らず年会費や審査料等の自主財源で活動してきました。

ただの一度も税金の補助を受けたこともなく申請すらしていません。ゆえに数年前からスポーツ
及び武道団体で問題となっている補助金不正流用等の素地が皆無なクリーンな武道団体です。

会員数＝競技人口数も、柔道、剣道、空手とは比べものになりません。

つまりJTAに入会してくる数＝母数が、柔道、剣道、空手と比べ絶対的に少ないのです。

自主的財源で運営しながら、相対的に少ない母数（会員）に対して、私・河は、試合大会、審査（とくに七大精神に基づく小論文・作文審査課題）、実技セミナー、基礎理論講義等で我が「七大精神」の「克己の精神の涵養」等を青年達に訴えているのです。そして社会に有為な人材を持続的に輩出し続けている。文部科学省からの補助金獲得に躍起になり、権力者に追従している大学が絶対多数の中、我がJTAのあり方は、正しい教育機関のあり方といえるのではないのでしょうか。

注5 筆者・河は、20～23歳にかけて、3度、ITF世界テコンドー選手権大会に出場した後、ヨーロッパのテコンドー道場（イングランド、スコットランド、ドイツ、イタリア等）を単身武者修行した経験があります。その際、印象深かったのは、ヨーロッパのテコンドー家には、裁判官、検事、弁護士、医師等のIQの高い職業従事者が結構、多かった点でした。子供の頃、学んでいた柔道、寸止め空手、極真空手、ボクシングには、そのような人は一人もいなかったからです。サラリーマンよりも、肉体労働従事者が多かったように思われます。青年や子供層も、どちらかといえば、私も含め勉強が苦手な人々が多かったと思います。ゆえに、「文武両道」という言葉を習った指導者から聞いた記憶が一度もありません。10年ほど前にK-1で活躍していたジェロム・レバンナ選手が、荒れていた子供の頃、親に対し「ボクシングかレスリングをやりたい！」と懇願したら、反対・拒絶されたが、母親が「柔道か空手なら良い」と答えたので、「空手を始めた」という記事を読みました。どうやらヨーロッパでは、ボクシングとレスリングは、アウトローのイメージがあり、他方、武道のイメージはとても良く、礼儀正しくなる等の教育効果が期待されているようです。IQの高いヨーロッパ人が武道に求めているのは、哲学的な精神性ではあろうと考えます。日本テコンドー協会が参考にすべき課題だと考えてます。